

音源の比較試聴(52)

—ベルリオーズの幻想交響曲—

1. 始めに

前報(51)に引き続き、各種音源の再生経路に関する仮想アースとアースアキュライザーや OPT ISO BOX や LAN iPurifier Pro などを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

2. 音源の比較試聴の試聴方法と音源

アナログ関係の対策の経過は前報(27)でも延べたとおりで、配信や CD 再生の光アイソレーションなどの対策は fidata HFAS1-S10 の活用シリーズや OPT ISO BOX の導入シリーズや LAN iPurifier Pro で報告してきました。

今回、同じ曲のアナログ盤、CD、STAGE+およびベルリンフィルデジタルコンサートからの配信を比較試聴します。

アナログ盤は下記を使用します。

EMI EAC-40067

エクトル・ベルリオーズ 幻想交響曲

オットー・クレンペラーフィルハーモニア管弦楽団

CD は下記を使用します。

Victor] JMCXR-0001

エクトル・ベルリオーズ 幻想交響曲

シャルル・ミュンシュ指揮ボストンシンフォニーオーケストラ

配信は STAGE+とベルリンフィルデジタルコンサートホールから上記と同一の曲を選択します。

エクトル・ベルリオーズ 幻想交響曲

ヤニック・ネゼ=セガン指揮ウィーンフィル

エクトル・ベルリオーズ 幻想交響曲

パーボ・ヤルヴィ指揮ベルリンフィル

それぞれの音源は、下記の経路で聴いていきます。

アナログ盤

LINN LP-12→ZANDEN Model 12→Brooklyn DAC+→TruPhase(A)

CD

EMT-981→TruPhase(B)→TruPhase(A)

STAGE+およびベルリンフィルデジタルコンサートホール

ルーター→スイッチングハブ→PC→Brooklyn DAC+→TruPhase(A)

3. 音源の比較試聴結果

アナログ盤は、レーベルに対応したイコライザー特性で聴いていきます。

アナログのクレンペラーフィルハーモニア管弦楽団盤は、1963年の録音で、盤質はよくありませんが、ソフトな音質で、その名のおり夢想的な表情が展開されていき、終楽章のチューバや鐘もリアルで、壮大なスケールで盛り上がります。

CDのミュンシュ指揮ボストンシンフォニーオーケストラの演奏は、1962年の録音で、EMT981のアナログ的な音質で全般的に押し出しがよく、終楽章の低弦や鐘もリアルで、スケール感のある迫力で盛り上がります。

STAGE+のネゼ=セガン指揮ウィーンフィルの演奏は、弱音が美しく、終章の盛り上がりに至ってもウィーンフィがよく協和しています。

ベルリンフィルデジタルコンサートのヤルヴィ指揮ベルリンフィルの演奏は、弱音から強奏まで緻密で切れがよく、終楽章は爆発的に疾走します。

4. まとめ

アナログ再生と STAGE+からの配信を比較してみましたが、これまでの対策で、すべてにおいてレベルが向上しており、以前のような格差がなくなっており、収録年代や収録環境や指揮者のこの曲の解釈やオーケストラの表現能力の違いが分かりません。

以上